

岩倉市タウンミーティング（川井町）会議録

平成26年10月25日(土)

午後7時～午後9時10分

川井町公会堂

出席者 川井町 38名

市長 副市長 総務部長 建設部長 秘書課長 都市整備課長

同課主幹 広報広聴グループ 2名

1 あいさつ

川井町区長あいさつ

市長あいさつ

2 懇談（要旨）

テーマ「岩倉市、又、川井町の将来の方向性等について」

- ① 市長のマニフェスト、信頼に応える100策の進捗状況について市長より各項目の進捗状況を説明し、質疑応答、懇談を行った。

・認定こども園の開設、待機児童の解消について

保育は0、1、2歳児の要望が多い。年度当初はよいが年度途中からの入園は受け入れられない状況が続いている。認定保育園は幼稚園が学校法人のまま保育ができるという国の新しい制度で曾野幼稚園、曾野第二幼稚園に加え岩倉幼稚園、岩倉北幼稚園、遊花幼稚園が新たに始まる。タイミングよく国が待機児童解消加速プランを始め補助金も有利となり、市が4分の1であったのが12分の1でよくなった。認定こども園は今年度中に設備が整い来年度から130人を受け入れられるようになる。

【質問】 川井町は市の南部であり近くは曾野第二幼稚園である。状況はどのようなになるのか。

【回答】 岩倉駅より北部で60人、南部で70人の定員が増える。幼稚園が点在していたため地域のバランスがとれている。ただし、入園希望が重なった場合は入園調整をする場合もあるが、受け入れの定員は確保している。

・健康づくり事業の推進について

岩倉健康マイレージが11月8日からスタートする。その他、ポールウォーキング、60歳以上を対象に講座後3か月間総合体育文化センターのトレーニング室を無料で利用できる「わくわく貯筋運動」など各課で横断的に事業を実施している。

・デマンド交通の提供について

巡回バスはコース、バス停、本数の設定が難しく満足度があがらない。岩倉市は市域が狭いので目的地まで時間がかからないのでタクシー型で行うこととした。予約で運行する方式で高齢者や移動困難な人に対して実施している。

改善をしたいこともあるが既存の事業者との調整や国土交通省の許可もあり難しい部分もある。

【質問】 デマンド型乗合タクシーの登録者数は川井町が20人とのことであるが、市全体では何名か。

【回答】 10月23日現在で1,442人です。

【質問】 予算はいくらか。

【回答】 約1,500万円です。

・同報系防災行政無線の整備について

現在、既に運用を開始している。午後5時には試験を兼ねて音楽を流している。これは、音量を4分の1にしてある。

【質問】 北名古屋市はイベント情報も流している。岩倉市でも地区の広報に使用することはできないか。

【回答】 川井町は地域がかたまっているが、他地区では混在している地区もある。今後、統一的なルール作りを検討したい。

【質問】 日曜日に広報をしたい場合、市役所に連絡をしないといけないと小回りが利かないのではないか。各防災無線にマイクをつけて区長判断で行えないか。

【回答】 防災無線の支柱にマイクは付いているので個別でできるようにはなっている。ただし、入り組んでいる地区もあり、その地区だけの情報伝達が難しい状況にある。現在は、市全体にかかわるものについて市のマイクから行っている。川井町、野寄町、北島町は問題がないと思っているので今後、どうしたらいいのかを考えるが、実施する可能性は十分にあると思っている。音量なども含め、せっかく投資した設備なので有効活用していきたい。

【質問】 行事を事前に回覧をするが日にちがあると忘れてしまう。当日に広報するような活用方法をとりたい。また、本日のタウンミーティングも市にお願いしたが難しいといわれた。

【回答】 現状、川井町だけ可能という訳にはいかない。川井町は伝播範囲で支障はないが支障のある地区がある。全体の共通のルールを作らないといけない。ご要望をいただいたので検討し使えるようにしたいと思う。

・新学校給食センターの建設

市営大地プールの跡地を利用する。大地プールは老朽化し維持管理費が多額となるため廃止した。その周辺の土地も買い建設する。27年度に建設、28年度の夏休みに引越し、平成28年9月（2学期）から給食を提供できるよう準備を進めている。全体で19億円の事業である。

最近はオール電化の施設もあるが、東日本大震災後の電力供給の不安もあり、検討の結果ガスと電気の併用の施設とした。

・サッカーグラウンドの建設

難しい問題であり、現在は検討中です。当初は遊水池を掘ってそこできなにかということを考えていたが、費用が10億円ほど必要で補助金なしの市単独事業では難しい。また、水が入った後のグラウンド整備にも費用がかかるので違う方法を考えている。既存の公園を拡張するという方法でできないかと考えている。補助の基準に広さが2ヘクタールというものがある。サッカーグラウンドは約1ヘクタールであり倍のものを作らないといけない。今ある1ヘクタールの公園を拡張することで整備をすることを考えている。この方法が岩倉市にとって一番支出が少ない方法ではないかと思っている。この2年間で国の補助制度をいろいろと調べたが規制がいろいろある。岩倉市の財政の中で行えることを考えようと思っている。

現在、岩倉市は非常にお金が必要な時期である。北島藤島線道路の跨線橋事業が総額10数億円、給食センターが19億円、小牧岩倉ごみ焼却場に総額140億円に対する岩倉市の負担金があり、ここ数年はいろいろなことが重なっているため、単独では難しく補助事業とするため考えている。

・北島藤島線道路の跨線橋工事

今年度に東側の橋脚を完成させる。上の桁については工場で作っている。29年度完成予定で順調に事業が進んでいる。

・桜通線・江南岩倉線の整備事業

桜通線については認可が下りたため今年から土地を買いはじめた。12メートルの道路になる。防災の観点からも幅広い道を作らないといけない。江南岩倉線については県道であるが桜通線と交差することになる。1期としては桜通線を岩倉街道まで通すことを目的としている。そして、早く県の事業である江南岩倉線を始めてもらうという状態である。

・調整区域における宅地開発

県条例により緩和され川井町でも16軒が建った。岩倉市全体で12,491㎡が農地から宅地に変る。

【質問】 調整区域における宅地開発か。扶桑町に比べて岩倉市は申請が少ないのではないか。

【回答】 25年に川井町、野寄町、北島町、井上町の調整区域について、都市基盤整備がされているという条件があり、公共下水道が整備されている地区が対象であくまで宅地開発が緩和されたので県へ申請したものです。

【質問】 サッカーグラウンドの建設について、遊水地など防災の機能を持たせたいという話を聞いていたが2haの開発ということになるとそういう機能はなくなるということか。

【回答】 防災で検討したが補助金が見つからない。雨水関連であると雨水処理計画から開始しないとけない。浸水が問題になっているのは上流部分である。調整区域では起きていない。大矢公園、五条川小学校のグラウンドに防水池を作ることになっている。田の中に作るとよいというアイデアをもっていたがなかなか実現しない。また、水が入るとグラウンドの整備費も必要になってくることから、雨水関連で作ることは難しい。

【質問】 北島藤島線の跨線橋の工事が行われている。西春、布袋は高架になっている。徳重まで高架になると大山寺駅が廃止されるという噂もある。市内を高架にしなかったのは50年先を見通す先見の明がなかったのではないか。

【回答】 20数年前にピアゴ岩倉店南の旭跨線橋を建設した段階で高架にはしないということになった。高架にしないことがそんなに悪いことだとは思っていない。布袋は国道155号線の手前で高架になり駅を上を作り大仏のあたりで下りる。この区間で200億円が必要である。岩倉市の1つの跨線橋で15億円ほどである。江南市は負担になると思う。どこに公共投資のお金をバランスよくもっていくかが問題である。江南市は下水道が遅れている。岩倉市は計画通り進んでいる。高架で鉄道を走らすのはよいが土地は名鉄のものであり踏切があったところが通れるだけである。財政が豊かなら高架もよいと思う。

【質問】 大山寺駅が無くならないようにしてほしい。

【回答】 大山寺駅は大事である。市内に3つ駅があることは住環境の利便性に欠かせない。このことについては、守っていききたい。乗降数も大事である。

・岩倉市の認知度向上策

なかなか決定打がなく困っている。政策創造プロジェクトという職員の組織がどうしたら岩倉市をアピールできるかを研究しながらいろいろなことを行っている。例えばふるさと納税で1千万円を超える市外からの寄付があった。NPOの岩倉観光振興会が設立され軽トラ市を始めとするイベントやい〜わくんを売り込んでいる。岩倉市のイメージを良くすることが大事であるが小さな市であり知らない人が多く、露出度が必要である。住んでもらうと非常に良い所であると分かってもらえる。子育てのしやすいまちでもアピールしていきたい。

・公共情報メールの配信

今までは防災のメールであったが、ほっと情報メールでジャンルを決めて情報発信ができるシステムを導入した。

・子や孫にツケを回さない財政運営

借入れを増やさないようにしている。事業を吟味し必要なことは行っている。決算では達成している。

・市長退職金の廃止

各市町との共同で行っているため制度を変えるのは難しい。自分でもらうというわけではなく世の中の役に立つようにするという事で自分のものにしないという方法で考えたいと思う。

② 天保橋について

都市整備課長より現状の説明ののち質疑応答を行った。

天保橋を街路事業に先立って行っている。今年度から工事に入る。平成28年度までの3年で橋梁の工事が完成する。北へ向かう都市計画道路岩倉西春線については北名古屋市だけでなく北島藤島線を介して一宮市や小牧市との地域道路ネットワークを構築する。物流や交流の活性化に期待が寄せられている。北名古屋市では道路の整備が完成している。区から要望をいただいているがカネクラ工業より北側の区間について早期事業をとのこであるが、天保橋の工事では橋が現況より80cmほど高くなるためその影響を解消する北側2スパンほどの道路整備をする。それ以外は橋が開通してもそのまま供用開始する。岩倉西春線は都市計画道路であるため引き続き最終の16mの幅員の道路整備を目指す訳ではあるが、他に

大きな事業があり財政的な限界もあり北島藤島線の高架が開通した以後にできるだけ早期に事業化に図れるように努めていきたい。

天保橋については今年度から工事が始まるので工事車両の通行や通行止めが行われます。また用地買収もありますのでご理解とご協力をお願いします。

【質問】 北島藤島線までの幅員が9 mである。大きなトラックが1台通ると普通車とのすれ違いが困難である。西側が整備されていないため寄ると重さで道路が壊れてしまう可能性が大きい。大型は交通規制するとかは考えているか。車が交差点で回るのも大変である。天保橋ができてもしっかり活用されないのではないか。

【回答】 ご指摘のとおり現状で供用開始をすると大型とのすれ違いや交差点での処理は、将来の計画と見比べると不十分な部分はある。供用開始後交通状況の変化を注視させていただき危険とか施設の破損とかがあったときは適切な対応をする。

【質問】 現在、農機具が横断したりして農道のように使っているが、予想される交通量はどれくらいか。

【回答】 最終的には日1万3千台の予定はしているが地区のネットワークが建設中など過渡期であるため天保橋の開通時に何台になるかは正確には示すことができない。交通事情の変動を注視し交差交通に危険があるような場合は警察とも協議し安全な供用に努める。

【質問】 農道と一般道路を兼用させることは長い間できるのか。農道は強度がないのではないか。10 t車が1日に1～2回通るだけでも数年も耐えられないのではないか。

【回答】 農道として整備されたものであるので舗装の厚み、地盤の強度は最終的に目指す道路構造には及ばないので供用開始後、構造的に痛みが進むといった状況があったら対応したい。

【質問】 北島藤島線までの区間は16 mの道路に整備するということであるが、現状のまま使うというのは財政的に今のところ目途が立たないからではあるが、今からでも計画をたて財政的に29年度から充てるとか取得していくということを送り先せず一刻も早く行うことを願う。

【回答】 天保橋ができたなら予定通りの幅員で作りたいが、岩倉市の南部の北島藤島線をまず完成させたい。天保橋は北名古屋市主導で行っているため北名古屋市との関係で開始したものである。次の予算としては天保橋から北側の北島藤島線までの道路を確実にやる予定である。交通量も見極めながら問題がないようにしていく。予算を付ける順番もありご理解いただきたい。

- 【質問】 北名古屋主導で行ったとのことであるが地元では要望していた事項である。財政状況もあると思うが、交通量を見極めてからということではなく計画的に実施してほしい。
- 【回答】 岩倉市側の財政状況も勘案し事業を進めたかったという意味である。交通量も道路が認知されてから増えてくる。支障がないように考えていく。
- 【質問】 農道が壊れた場合、また農道として修繕するつもりか。それとも一般道路の強度としていくのか。
- 【回答】 通過交通、車両の状況を見て直してもすぐに壊れてしまう場合は意味がないので、そのような場合は対応できるような対策を講じていく。
- 【質問】 農道の中にクレーン車が置いてある場所があり、その前面の道路も最近舗装が行われた。クレーン車が動くと従来と同じ農道舗装ならすぐに壊れるのは明らかである。
- 【回答】 岩倉病院の北側の道路のことであると思うが、舗装が亀の甲状態のひび割れがあり、通行に支障が出ていたため舗装を行った。通常は路盤を不陸整正したうえで舗装をやり直すという一般的な工法をとるが大型の交通が多いような場合は下の路盤も改良するという工法をとっており、指摘の場所は通常の不陸整正ではなく路盤に改良材を加え通常の舗装よりも支持力を増す工法を採っている。
- 【質問】 今回の場合も同様な対応をする可能性が高いということか。
- 【回答】 状況によって対応する。

③ 都市計画マスタープランについて

都市整備課長より現状の説明ののち質疑応答を行った。

愛北クリーンセンターの北側に物流業者の誘致の話があったが将来の産業展開の受け皿として検討するとされているにもかかわらず道路幅が基準を満たしていない。またインターからも遠いとの問い合わせについて説明をする。

愛知県の開発許可基準を適用し流通業務施設で物交法で総合効率化計画の陸運局の認定を受けた特定流通業務施設をこの地区に建設する場合はインターチェンジからの距離が1キロ以上あるため9メートル以上の道路が必要である。岩倉市都市計画マスタープランにおいて工業系の市街地拡大検討地区、将来の産業展開の受け皿として検討する地区という位置づけをしている以上、市が責任を持って開発の条件となる9メートル以上の道路を整備すべきであろうという要望であると捉えている。

これに対して市の見解は、愛北クリーンセンターの東側の地区については過去において良好な農地を作ろうという目的で圃場整備が行われた。そ

ういった理由で農業振興地区として指定されている。いわゆる色地という指定がされている。農地法上はこの地区は農地を保全すべき地区であるという位置づけがされている。一方で区が言われるとおり市では平成23年3月に策定した岩倉市都市計画マスタープランにおいてこの地区を工業系市街化区域拡大検討地区と位置づけている。農地の保全と工業系市街地拡大の矛盾しているような政策を採っているのではないかと感じられる方もおみえになると思う。岩倉市都市計画マスタープランに位置づけたのは岩倉市都市計画マスタープランを策定するに当たって地元からの市街化の要望をいただいているようであり計画にそのことを載せよう、地元の意見を反映させようといった経緯で策定された。また、愛知県における市街化区域の拡大は、全国的な話ではあるが人口減少期を迎えていて市街化区域の拡大は岩倉市に限らず全国的な問題としてかなり難しい課題であると捉えている。ただ、市としても市長の100策にもあるように企業誘致は進めていかなければならない重要な課題としての認識は持っている。農地から市街化区域への方向転換は法律的な縛りの中で難しいかもしれないが例えば個々で民間の開発のご相談とかがあった場合は法令を遵守して公平性を鑑みながら優良な企業を岩倉市に誘致できる方法はないかと検討するといった姿勢には変わりないのでご理解いただきたい。

【質問】 全国的な話があったが、我々は地域の人間であり、最近の新聞ではリニア新幹線が開通する時代、岩倉というところは名古屋からも近いところにある。全国的な視野と部分的な岩倉のとるべき立場を考えてもらわなくてはならない。岩倉は立地がよい。名古屋が発展すれば岩倉も発展しなければならない。市の方針というが再度、目を開いて前向きに考えてほしい。

【回答】 岩倉市は皆さんと同様の考えである。今、農業の後継者は少ない。岩倉市が名古屋駅から11分で交通の利便性からいっても安城市や田原市といった農業の盛んな地域とは違う。名古屋に近く大規模で農業ができない地域は厳しい。財源確保の観点からも企業誘致をしたい。ところが法律がある。農地を振興地域として整備をした。そこをひっくり返すことはなかなか難しい。いろいろな手法を使う。物流を改善する許可や先端技術の2種類は調整区域の中でできる。その方法を使って個別の案件で成立するように行おうとしている。

【質問】 県の条例があるがもっと市が行うべきではないか。

【回答】 以前から優良農地の保全と開発といった矛盾した政策になっているので川井町をはじめ野寄町などから色々と意見を聞いている。市長の方針でもあり、毎週のように開発の相談がある。個別案件でしか対応ができた

いが市ができることは県とも折衝をして開発するという方向で事務を進めている。以前は一部、農地の保全ということもあり厳しいという回答を窓口でしてきたこともあったが、今は案件ごとに県の担当に行き周りの環境、地元の意向を説明し何とか開発ができるよう努力している。

【質問】 県条例の34条12号ではそのようなことは関係なく市からの申請で行うことができるかと受け取れるが。

【回答】 マスタープランは楕円で囲ってある地域が検討する所である。折衝しているのは県の農政である。都市計画法と農地法、農業振興整備法があり法規制が厳しい。

【質問】 扶桑町では認可されているのではないか。

【回答】 扶桑町は色地の所を行ったのか、白地の所を行ったかは確認しないと分からないが条件としては色地のところは指定できない。そこが課題であり、岩倉市の農業の事情をやむなく優良農地の保全地区から外したいということを岩倉市全体から見てこの地区が岩倉市の農業にとって色を外しても問題ないという形のをきっちり示すことによってやれるが、それが今すぐできるかというとなかなか難しい。扶桑町の具体的な例は調べておく。

【質問】 白地にする方法を考えてほしい。

【回答】 もうしばらく時間がほしい。なんとかいい方法を見つけたい。

【質問】 青地が白地になった例はないか。

【回答】 担当レベルの話ではあるが色のついた調整区域で10ヘクタールを下回る地域なら何とかなるというようなニュアンスである。今、検討している川井地区では岩倉西春線から西側から愛北クリーンセンターまでのエリア約20ヘクタールあるので、県は甲種、一種、二種、三種と優良農地にも段階があり今は一種扱いをしているが甲種でも良いと県の農政サイドは言っている。しかし、都市部で後継者の問題、農業で生計が立ちにくい、国の施策で集約して農地を保全する政策がでてきているが、都市近郊で資産価値がある土地をそのまま農地で行っていくのは難しいので一番上の甲種はもつての外であると市は話し折衝しているので時間が必要である。

【質問】 広瀬橋の通りは9メートル道路になるのか。現状は7メートルである。

【回答】 予定はありません。今の天保橋は都市計画道路であるので既に図面上は線が引いてある。線が引いてある道路が行えていない状態で他の所を行うといった順番は行政としてはできない。開発で道路を付け替えるといった機会があれば拡張するようなことはあるかもしれないが優先的に予算を付けてといったことは順番的にできない。個別の案件が出た時点で業

者が供出する土地で拡幅することはできる。案件が出た時点で相談していただければ策は考える。ただし、公共事業としてそこを拡幅する事は筋道としてできない。

【質問】 農道は市の財産である。企業誘致した場合、道路が浮いてくるといったことを考えればよいか。

【回答】 そのような手法で拡幅することは色々な所で行っている。開発で道路を取り込んで開発することは他でも行っている。都市計画法の32条で協議をして廃道をしたり水路を付け替えたりしているが、基本的には付け替えは開発業者と公共施設の付け替えを協議する。ただし、開発の県の指導で9メートルを確保しなさいというものに原則は公共施設の付け替えの土地というのは充てないのが原則であり、そのあたりはうまく市の施策とからめて合理的に説明ができる状況であったりして、公平性が保たれる状況であれば最大限努力をする。

【質問】 四角四面ならだめであるがある条件ならできるのか。

【回答】 公共用地を開発のために充てるのは難しい。開発業者が行うことにより公平性が保たれる。

【質問】 公害防止委員会で聞いたことであるが、愛北クリーンセンターでは10トン車が1往復しているとのことである。10トン車が毎日通行する道路が7メートル道路でよいのか。矛盾していないか。

【回答】 通学路である、岩倉総合高校に通学する生徒が自転車で大勢通り危ないといった場合は、当然に市も交通安全対策が必要になると思う。ただし、開発業者が道路が狭く開発ができないというようなことを理由に道路を市が広げるといことは他地区の方からすると説明ができないと思う。

【質問】 それを前提とするとマスタープランで工業地区の指定をした意味がないのではないか。企業としては魅力のない場所、道路を自分で作ってから出ないと進出できない。あくまで競争でありハンディキャップを背負った地区へわざわざ喜んで進出する企業があるとは想像ができない。

【回答】 工業団地として大型が入れる道路を作ったり、その開発によって浸水対策が必要なものを作ったり、場合によっては緩衝の緑地を作ったりする開発をする基盤整備もあると思う。そういったものを網羅して企業団地として開発している市町もある。岩倉市の場合は田がメインであるが開発業者が土留めを作ったり狭い道路を広げたりすることも開発業者の負担で行うことが方策である。

【質問】 土留めを開発業者が行うのは当たり前であるが、進出する条件の道路がないというのは開発業者の責任ではないと思うが。進出するための許

可が下りる道路がない。

【回答】 市内にも工場が進出してほしい場所はたくさんある。工業団地を作ったところは最初から工業団地として開発をしている。それを最初から行えばよかったが、この辺りは優良農地といったことで補助整備を行っている。工業団地として行ったところ、例えば村久野の辺り、大草など農地を直接工業団地としている所がある。今、困っているのが一旦農地として税金が投入されている。小牧は工業団地として税金が投入されている。そういう段階を経てからひっくり返すのはものすごく難しい。結局は個別の案件で行うしかない。圃場整備で県のお金が入っているのでそれをひっくり返すのは難しい。

【質問】 広瀬橋の道路は県道なのか。

【回答】 市道である。区域全体として工業地域に変えるというのが難しいとっている。どうしたらできるかといったら個々の案件ごとに行うしかない。工業系開発検討地域という言葉を使って開発する理由にしたいとのことで言葉を入れた。法でどうにもならないということは分かっていたがぼやっとでも書こうと、市としてはここに誘致したいと思っていることだけは表そうということで無理やり書いた。実績を作りながらひっくり返そうというのが作戦であるがなかなか厳しい。

【質問】 土地改良について補助金はもらっていないのか。

【回答】 舗装については補助金をもらっている。土地の目的を一度、農業としているのでそこを変えるのが難しい。

【質問】 青地と白地を決めた時に3年間辛抱してほしい、とのことであり、知らないうちに農振地区になってしまった。

【回答】 当時のことは分からないが残念なのは市の半分が調整区域である。旧西春町は市街化区域が多い。事情があったかもしれないが、それが固定化されなかなか外せない。

【質問】 青地を外すことは努力していただくとして、広瀬橋の通りをどんな手段を使ってでも9メートルにしないと企業が進出する可能性はゼロである。クリーンセンターに10トン車が来るとというのが9メートルにする根拠とならないか。

【回答】 今の時点で愛北クリーンセンターが出来てからの経緯や今までの状態の道路で特別歩行者が多くて危ないとか自転車の学生が大型車とすれ違うときに危ないといった具体的な話が今まではなかった。にわかには大型車の搬入で道路が狭いといった理由は難しい。

【質問】 岩倉総合高校の生徒はたくさん通学する。10トン車と重なることはないのか。

【回答】 そういった話が現実であったなら市で調べて危険性がある場所ならばたくさん道路を直すところがある中で全体をみて優先順位を決めているのでその中で考えていきたい。

【質問】 道路幅の見解であるが車道と歩道を含めて道路であるのか。9メートルは車道なのか、歩道を含めての話か。

【回答】 歩道も含めてである。

④ その他

【質問】 区から話題提供として人口減少問題について資料を配布する。今年の5月に日本創生会議という機関が将来人口推計を発表した。2010年から2040年までの30年間に20歳から39歳までの女性の人口を推計している。50%以上この層が減る都市を消滅可能性都市としているが全国で約半数の896市区町村が該当する。愛知県で消滅可能性都市は少ないが岩倉市はこの辺りで一番人口減少推計が多い。岩倉市より悪いところは三河山間部、海部地方、知多半島先端部である。現在15歳までの子供と将来5年以内に生まれてくる子供の話であり岩倉市が周辺市町よりも減少率が多いということは若い女性にとって岩倉市には魅力がないと、将来大きくなったときに岩倉市から出て行くといったことで減少率が大きくなる。問題は2040年が人口減少の底ではなく一旦減り始めると加速度的に生まれる子供が減ってくる。具体的に若い人が4割減ると小学校が5校から3校でよくなる。犬山線沿線では岩倉市がそういった問題に最初にあたるといったことを示している。本日は話題提供として近隣市町と比べてどういったところに魅力が欠けるのかといった意見交換がしたい。

【回答】 岩倉市の減少率が高い理由は持ち家の比率が低い。50%を下回っているのが岩倉市と名古屋市である。それ以外の市町は60～70%である。景気の変動によって人口が変わる。リーマンショックのあと外国籍の方が転出している。住民基本台帳の制度が変わり外国人も同じシステムに入ることとなった。その際に実際に住んでいるか確認し、職権で消除を2～300人ほど行った。このことにより大きく減った。岩倉市のデータが急激にマイナスとなったタイミングで推計されているので少しぶれている。岩倉市と江南市で大きく変わるとは思えない。人口は減少傾向にある。日本創生会議はこのままにしておいたらの話をしている。子育て世代30代、40代の方が魅力に思えるまちを宣言している。子育て中の人に岩倉市に来てもらうために万全の子育て支援策を行っている。医療費は中学生まで無料である。保育の問題も徹底的に行っている。名古屋駅から11分

であり共働きしている人に岩倉市にまずは賃貸でもいいので住んでもらいたい。住むと岩倉市のいいところが見えてきて分譲や戸建てを買い定住してもらえと思っている。何もしなかったら人口は減っていくが止めることができると思っている。

【質問】 外国籍の人は推計に関係がないのではないか。

【回答】 外国籍の方と賃貸が多いことが要素になっている。

【質問】 女性から見れば教育、医療、住環境が一番大きい問題である。住環境については持ち家を増やさないといけないと思う。川井町は大山寺駅から歩いて十数分でありこういったところで優良な宅地を供給するといったことを検討課題としてほしい。

【回答】 川井町も開発できるようにしたが実績が少ない。戸建ての住宅が建つと30代～40代のうちで家を買うというのが70%くらいある。まさしくその年代が定住するのでぜひ土地を供給してほしい。

⑤ 副市長あいさつ

以上